

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-183394

(P2004-183394A)

(43) 公開日 平成16年7月2日(2004.7.2)

(51) Int.Cl.⁷

E04D 13/072

F I

E04D 13/072 501P

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 (22) 出願日	特願2002-353987 (P2002-353987) 平成14年12月5日 (2002.12.5)	(71) 出願人 000002174 積水化学工業株式会社 大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号 (72) 発明者 柳川 祥二 埼玉県朝霞市根岸台3-15-1 積水化学工業株式会社内
-----------------------	--	---

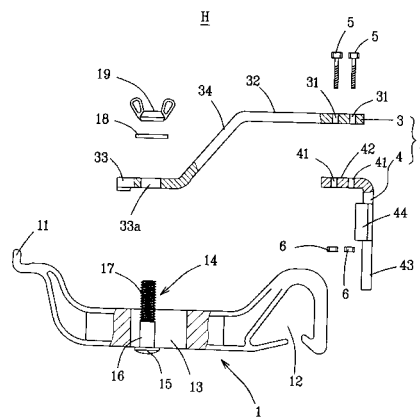
(54) 【発明の名称】 軒樋支持具

(57) 【要約】

【課題】 積雪地帯でも対応できるように支持具本体と取付体とが一品種で取付け高さを調整可能とした軒樋支持具を提供することを目的とする。

【解決手段】 軒樋8を支持する樋耳支持部11、12が設けられた支持具本体1と、軒先の鼻隠し板Fなどに取り付けられる取付体2とからなり、この取付体2の屋外側端部に前記支持具本体1が止着された軒樋支持具において、前記取付体2は支持具本体1に止着される連結部材3と軒先の鼻隠し板Fなどに取り付けられるL字状に屈曲した固定部材4とからなり、連結部材3の屋内側端部に固定部材4が倒置可能に取付けられている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

軒樋を支持する樋耳支持部が設けられた支持具本体と、軒先の鼻隠し板などに取り付けられる取付体とからなり、この取付体の屋外側端部に前記支持具本体が止着された軒樋支持具において、

前記取付体は支持具本体に止着される連結部材と軒先の鼻隠し板などに取り付けられる L 字状に屈曲した固定部材とからなり、連結部材の屋内側端部に固定部材が倒置可能に取付けられていることを特徴とする軒樋支持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

10

【発明の属する技術分野】

本発明は軒先の鼻隠し板などに取り付けられる軒樋支持具に関する。

【0002】

【従来技術】

従来、軒樋を軒先に取り付ける際に使用される軒樋支持具として、受け金具方式の軒樋受具や吊り金具方式の軒樋吊具がある。

例えば、軒樋吊具としては、両端部に軒樋耳支持部が、中央部にボルト挿通長孔が設けられた吊具本体と、一端部に軒先の鼻隠し板などに取り付ける取付部が、他端部にボルト挿入孔が設けられた取付体とからなり、この取付体の他端部に前記吊具本体の中央部が装着されて、取付体のボルト挿入孔と吊具本体のボルト挿入長孔とに挿通されたボルトと、蝶ナットとで、吊具本体が取付体に止着されたものが知られている（例えば、特許文献 1 参照。）。

20

【0003】

【特許文献 1】

特開平 2000—80771 号公報（第 1 図及び第 4 図）

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来技術の軒樋支持具の場合、取付体の取付部は屋内側において下向きに直角に屈曲して一体に形成されており、積雪地帯ではこの軒樋支持具のを軒先の鼻隠し板などに取り付けると、屋根の軒先に接近してしまい、雪の荷重によって軒樋支持具に取り付けられた軒樋とともに変形してしまうことがあった。

30

そこで、積雪地帯でも対応できるように、取付体の取付部を屋内側において上向きに直角に屈曲した取付体を別途用意しているが、部品を 2 品種揃えておかなければならないという問題があった。

【0005】

本発明は上記従来技術の問題を解消しようとするものであり、その目的とするところは、積雪地帯でも対応できるように支持具本体と取付体とが一品種で取付け高さを調整可能とした軒樋支持具を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

40

請求項 1 記載の本発明の軒樋支持具は、軒樋を支持する樋耳支持部が設けられた支持具本体と、軒先の鼻隠し板などに取り付けられる取付体とからなり、この取付体の屋外側端部に前記支持具本体が止着された軒樋支持具において、前記取付体は支持具本体に止着される連結部材と軒先の鼻隠し板などに取り付けられる L 字状に屈曲した固定部材とからなり、連結部材の屋内側端部に固定部材が倒置可能に取付けられていることを特徴としている。

【0007】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

図 1 は本発明の軒樋支持具の実施例を部品を分解して示す部分破断側面図、図 2 は本発明

50

の軒樋支持具に使用される固定部材を示す斜視図、図 3 は本発明の縦樋支持具を降雪の少ない通常の地域での使用状態を説明する側面図、図 4 は本発明の軒樋支持具を積雪地域で使用する状態を説明する側面図である。

【0008】

図 1 において、H は内吊り方式の軒樋支持具であり、支持具本体 1 と取付体 2 とで構成されている。支持具本体 1 はポリカーボネート樹脂製のものであり、取付体 2 はステンレス製のものである。

【0009】

支持具本体 1 の屋外側の一端部には軒樋の屋外側耳部を支持する樋耳支持部 1 1 が、屋内側の他端部には軒樋の屋内側耳部を支持する樋耳支持部 1 2 がそれぞれ設けられている。また、支持具本体 1 の中央部には長手方向に沿って連結ピン挿入用長孔 1 3 が上下方向に開口して設けられている。 10

【0010】

この連結ピン挿入用長孔 1 3 に下方から挿通される連結ピン 1 4 は、下端に鰐部 1 5 を有し軸部 1 6 に螺子 1 7 が螺設されており、この軸部 1 6 にワッシャー 1 8 を介して蝶ナット 1 9 が取付けられるようになっている。

【0011】

取付体 2 は支持具本体 1 に止着される連結部材 3 と軒先の鼻隠し板 F などに取り付けられる L 字状に屈曲した固定部材 4 とからなる。連結部材 3 の屋内側の一端部には 2 個のネジ挿通孔 3 1 が穿設された接続部 3 2 が水平に設けられており、屋外側の他端部には連結部 3 3 が水平に設けられている。接続部 3 2 と連結部 3 3 は傾斜部 3 4 にて一体に連結されており、連結部 3 3 のほぼ中央にはピン挿通孔 3 3 a が設けられている。 20

【0012】

固定部材 4 は、図 2 に示すように、2 個のネジ挿通孔 4 1 が穿設された水平片部 4 2 と、水平片部 4 2 の後端から下向きに直角に屈曲して垂下した垂直片部 4 3 と、この垂直片部 4 3 にリベット等により止着された座板部 4 4 とから構成されている。座板部 4 4 は中央部が垂直片部 4 3 を嵌め込むように凹設されており、座板部 4 4 の周縁部には 4 個のビス孔 4 4 a が設けられている。

【0013】

そして、連結部材 3 の接続部 3 2 に固定部材 4 の水平片部 4 2 を重ね合わせ、それぞれのネジ挿通孔 3 1 と 4 1 を一致させて、ボルト 5 をネジ挿通孔 3 1、4 1 に挿通させナット 6 を螺着し締結することにより、連結部材 3 と固定部材 4 を接続して取付体 2 を組み立てる。 30

【0014】

この取付体 2 の連結部 3 3 を支持具本体 1 の中央部に当接して、連結ピン挿入用長孔 1 3 から連結ピン 1 4 を挿通し、その先端を取付体 2 の連結部 3 3 のピン挿通孔 3 3 a から上方に突出させ、連結ピン 1 4 の先端にワッシャー 1 8 を介して蝶ナット 1 9 を螺着し締結することにより軒樋支持具 H を構成している。

【0015】

このような軒樋支持具 H は、通常は雪の少ない地方において、図 3 に示すように、連結部材 3 の接続部 3 2 に固定部材 4 の垂直片部 4 3 を下向きにして接続した取付体 2 を用いて、支持具本体 1 に取付けて、軒先の鼻隠し板 F に固定部材 4 を釘 7 を座板部 4 4 のビス孔 4 4 a に挿通して打ち付け固定する。このとき、軒樋 8 が支持具本体 1 に取り付けられたときに、軒先から軒樋 8 の屋外側耳部 8 1 までの落差 A が例えば 76 mm となる位置で固定部材 4 は軒先の鼻隠し板 F に取り付けられる。なお、符号 8 2 は縦樋 8 の屋内側耳部である。 40

【0016】

一方、上記軒樋支持具 H を、積雪地帯で使用するときには、図 4 に示すように、固定部材 4 の垂直片部 4 3 を上向きに倒置して連結部材 3 と接続した取付体 2 を用いて、軒先の鼻隠し板 F に固定部材 4 を釘 7 を座板部 4 4 のビス孔 4 4 a に挿通して打ち付け固定する。 50

このとき、軒樋 8 が支持具本体 1 に取り付けられたときに、軒先から軒樋 8 の屋外側耳部 8 1 までの落差 B が例えば 1 1 0 mm となる位置で固定部材 4 は軒先の鼻隠し板 F に取り付けられることにより、屋根から雪が滑り落ちるときに軒樋 8 に雪が引っかかることがない。

【0017】

このように、取付体 2 は、連結部材 3 に L 字状に屈曲した固定部材 4 を倒置可能に取り付けることができるので、一品種で通常の地域と積雪地域とでの取付け高さを調整可能となる。

【0018】

以上、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明してきたが、具体的な構成はこの実施例に限られるものではなく本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計変更等があっても本発明に含まれる。

例えば、上記実施の形態では軒樋支持具 H として、内吊り方式の軒樋支持具を用いたが、外吊り方式の軒樋支持具であってもよく、また、受け金具方式の軒樋受け具であってもよい。

【0019】

【発明の効果】

請求項 1 記載の軒樋支持具においては、軒樋を支持する樋耳支持部が設けられた支持具本体と、軒先の鼻隠し板などに取り付けられる取付体とからなり、この取付体の屋外側端部に前記支持具本体が止着された軒樋支持具において、前記取付体は支持具本体に止着される連結部材と軒先の鼻隠し板などに取り付けられる L 字状に屈曲した固定部材とからなり、連結部材の屋内側端部に固定部材が倒置可能に取り付けられているので、積雪地帯でも対応できるように支持具本体と取付体とが一品種で取付け高さを調整可能となり、部材の在庫管理のコストが低減される。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の軒樋支持具の実施例を部品を分解して示す部分破断側面図である。

【図 2】本発明の軒樋支持具に用いられる固定部材を示す斜視部である。

【図 3】図 1 の軒樋支持具の使用状態を示す側面図である。

【図 4】図 1 の軒樋支持具の積雪地帯での使用状態を示す側面図である。

【符号の説明】

H 軒樋支持具

1 支持具本体

1 1、1 2 樋耳支持部

1 3 連結ピン挿入用長孔

1 4 連結ピン

2 取付体

3 連結部材

4 固定部材

4 2 水平片部

4 3 垂直片部

4 4 座板部

F 鼻隠し板

8 軒樋

8 1 屋外側耳部

8 2 屋内側耳部

10

20

30

40

